

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 年 月 日

公表: 令和4 年3 月30 日

事業所名 いちごROOM

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		2店舗あるので、利用者人数の調整をして、十分なスペースが確保できるようにしている。	
	2	職員の配置数は適切である	7		資格者が既定の配置人数を確保しつつ、配置数以上に職員配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		7	建物の2階に事業所があり、階段には手すりが設けてある。室内は、玄関・トイレに少し段差はある。それ以外は、バリアフリー構造である。	危険のないように、常に声掛けをしている。階段の昇り降りでの歩行訓練になっている利用者もいる。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	4	月1度の事業所内での勉強会をしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2	職員会議で、各問題点を検討、今後の改善へ繋げるようにしている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	4	すてっぷサポートホームページに公開	自社のホームページに掲載、更新していく
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7	職員、保護者以外の評価を頂く機会を設けていない。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		月1度の事業所内での勉強会をしている。外部研修に職員の経験年数、スキル等を考慮して参加している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		アセスメント表や保護者からの口頭、又は連絡帳によりニーズを把握している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		標準化された外部アセスメントツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		正社員を中心に話合っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		曜日は固定せずに、その日の利用者メンバーに適切な支援を考えている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		毎月の予定を決めて、実行している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		子どもの得意、不得意を考慮し、作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	利用者メンバーの確認や注意事項を共有できるように開始前に打ち合わせをしている。	打ち合わせの時間を決めて、細かい打ち合わせ、周知できるようにする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	4	職員間で申し送りや反省点を行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		業務日誌等により記録している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		出来るようになったこと、クリアした場合は次のステップに計画を変更している。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	4		ガイドラインの周知に努める。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		相談支援事業からのモニタリングについては、児発管が対応している。担当者会議にも出席して、意見交換など情報集をしている。	会議参加の要請があれば、日程調整をして随時参加していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		ほぼ、保護者を通じて確認している。説明会のある学校へは参加している。トラブル等は、電話やメール、送迎時に対応している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			該当なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		7	就学前との情報交換はしていない	情報共有も視野に入れて、取り組んでいく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		7	依頼がないため、支援はしていない。	今後、情報提供や会議等があれば検討していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	電話などで助言を頂いたり、専門機関の方の訪問時に話し合ったりしている。専門研修にも参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		7	交流はしていないが、町内のお祭りや、子ども食堂での障がいのない子どもとの関わりが以前はあったが、コロナの影響で機会がない	コロナが落ち着き、町内の祭りや子ども食堂等の機会も増えるので検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	5	リモートでの参加が主になり、参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		連絡帳でのやりとりや、送迎時に直接保護者に伝えさせてもらっている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		7	ペアレント・トレーニングは、行っていないが、保護者からの悩み、相談については、その都度、助言をしている。	今後、ペアレント・トレーニングの必要があれば検討していく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		その都度、助言させてもらっている。職員にも周知している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	4	父母会は結成されていないが、いちご祭りで、保護者同士の交流の場を設けた。	父母の交流できる機会を増やして行こうと思っているが、コロナの影響も考慮して検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7		担当者が迅速に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		月1回 いちご祭りを発行して、取り組みや予定など、お知らせしている。	ホームページ、ブログ等、随時更新していく
	35	個人情報に十分注意している	7		事務所の施設できる場所に保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		電話、FAX、メール、筆談等工夫をしている。また、送迎時に対応している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7		ご近所の方、町内の方や町内会長を招待した、いちご祭りを開催した。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	5	マニュアルを作成し、職員会議や勉強会に使用し、訓練している。	マニュアルの見直しを随時、行っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		月1回 子どもと一緒に火災、地震、水害、不審者等の訓練をしている。	非常時の備えを充実させる。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		事業所内の虐待防止の勉強会を行ったりして、知識とスキルの獲得を目指している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	4	保護者には、契約時や面談で説明をし、同意書を頂いている。	放課後等デイサービスの支援計画に記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		保護者からの説明、アセスメント用紙、診断書等に対応している。常に状況報告をしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		ヒヤリハットの様式の用紙の変更をして書きやすくした。すぐに確認できるようにファイルが置いてあり、いつでも閲覧、共有ができる。	